

# 精神医学 ワーク

## 脳と脳神経の構造

1. 次の（ ）に当てはまるものを書きなさい。

- (1) ゲノム配列以外の、DNAメチル化やヒストンの修飾状態など、遺伝子発現に影響する要因を研究する領域を、(① ) という。
- (2) 脳の細胞と細胞間の情報伝達物質間の情報伝達は、通常、(② ) の放出という(③ ) 的な形で行われる。
- (3) (④ ) は神経系の興奮伝導の基本的構成要素である。脳全体で(⑤ ) 個以上の(④ ) が存在すると考えられている。
- (4) ニューロンは、(⑥ )、(⑦ )、(⑧ ) から構成される。
- (5) ニューロンの細胞体の尖った部分から延びる樹状突起を(⑨ ) という。(⑨ ) は(⑩ ) に長い枝を広げている。
- (6) ニューロンの細胞体の裾野の部分から木の枝のように延びる樹状突起を(⑪ ) という。周囲の他のニューロンとつながりネットワークを構成する。
- (7) 軸索は脳で(⑫ ) をまとっている。白質を通して他のニューロンと神経パルスを送達する。
- (8) ニューロンは脳を構成する(⑬ ) の最小構成単位である。
- (9) ニューロンは脳全体の細胞数の(⑭ ) %を占め、(⑮ ) 個以上が存在すると考えられている。
- (10) 末梢神経系の軸索(神経線維)は、(⑯ ) 細胞が取り巻き(⑰ ) 鞘を形成している。

(11) 大脳皮質の細胞構築をもとに大脳皮質を約 50 の脳領域に分けたものを

(17) ) という。

(12) 一次運動野は前頭葉の (18) ) にある。

(13) 脳の (19) ) はステレオタイプな行動を抑制する働きがある。

( 19 ) 障害の診察法の 1 つに「後出し負けじゃんけん」がある。

(14) ストループテストは (20) ) の障害を調べる検査である。

(15) A=報酬、B=罰と関連づけられていた課題について、逆に A=罰、B=報酬と関連づけられる学習のことを (21) ) という。

(16) (22) ) の障害では逆転学習が障害される。

(17) 大脳深部の灰白質は (23) ) と呼ばれる。

(18) 大脳基底核は (24) ) (25) )

(26) ) などの構造に分けられる。また、中脳の

(27) ) や大脳底面の (28) ) も大脳基底核の一部とされる。

(19) 大脳基底核は、(29) )、(30) )、

(31) )、(32) ) などに関係している。

(20) (33) ) は恐怖反応に関係している。( 33 ) が先天的に欠損している病気を (34) ) という。

(21) 帯状回は (35) ) に関係している。帯状回は

(36) ) を抑制する働きをもっている。

(標準精神医学第7版、公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学、発達心理学Ⅰ、公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より抜粋、作成)

2. 次の ( ) に当てはまるものを書きなさい。

中枢神経の構造

中枢神経 central nervous system : CNS	① ( ) cerebrum
	② ( ) cerebellum
	③ ( ) brainstem
	④ ( ) spinal cord
末梢神経 peripheral nervous system : PNS	⑤ ( ) cranial nerves ⑥ ( ) 対
	⑦ ( ) spinal nerves ⑧ ( ) 対
	⑨ ( ) autonomic nervous system

公認心理師カリキュラム準拠臨床神経心理学より引用

3. 次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 脳は最も基本的な分類では、(① )、(② )、(③ ) の3つの構造から構成される。
- (2) 大脳半球 (cerebral hemisphere) は、(④ )、(⑤ )、(⑥ )、(⑦ ) の4つの脳葉に分けられる。
- (3) ヒトでは前頭葉の占める割合が大きく、特に(⑧ ) の占める割合が大きい。
- (4) 左右の大脳半球は(⑨ ) でつながっている。
- (5) 大脳皮質は(⑩ ) とも呼ばれる。
- (6) 大脳皮質は(⑪ )、(⑫ )、(⑬ ) に分類される。
- (7) 嗅脳:olfactory は(⑭ ) に含まれる。

- (8) 旧皮質には (15) )、(16) ) などの大脳辺縁系が含まれる。
- (9) 新皮質には大脳皮質背外側の (17) ) %以上の部分が含まれる。
- (10) 脳の折りたたみ構造のうち、外側に突出した部分を (18) )、内側に凹んだ部分を (19) ) と呼ぶ。
- (11) 大脳の外側溝の奥には (20) ) と呼ばれる大脳皮質が隠れている。
- (12) 前頭葉、頭頂葉、側頭葉の部分が延長し、島を被っている部分を (21) ) という。
- (13) 頭頂葉周辺は (22) ) と呼ばれることがある。
- (14) 辺縁系は、(23) )、(24) )、(25) )、(26) )、(27) )、(28) )、(29) )、(30) ) などから構成される。

公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学より引用

#### 4. 次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 錐体外路 (extrapyramidal tract) は、大脳から (①) ) に向かって走行する錐体路以外の遠心性の投射繊維。大脳基底核や脳幹に集中している。(②) ) や (③) ) を制御する。
- (2) 視床皮質路 (thalamo-cortical tract) や脊髓視床路 (spino-thalamic tract) は、(④) ) から大脳皮質に向かう求心性の神経線維。
- (3) 大脳基底核 (basal ganglia) は、(⑤) )、(⑥) )、(⑦) ) から構成される。
- (4) 線条体 (striatum) には、(⑧) ) と (⑨) ) が含まれる。

(5) 被殻と尾状核をまとめて (10) ) と呼ぶことがある。

(6) 小脳は左右の (11) )、正中部の (12) ) からなる。

(7) 小脳は (13) ) によって中脳、橋と結ばれている。

公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学から引用

5. 次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

(1) ( ) : 皮膚などで感知した知覚情報を中枢神経へ伝達する役割と中枢神経からの指令を末端に伝える役割がある。

末梢神経	(2) )	自覚することができ、意思によってコントロールできる。知覚神経や (3) ) など。
	(4) )	意思とは無関係に働くようにみえる神経。(5) )、肺、血管などの内臓の働きを司る。

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学、標準精神医学第7版を参考に作成

交感神経 : (6) ) が作用して活動時に働く

副交感神経 : (7) ) が作用して、リラックス時に働く

6. 次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

(1) (1) ( ) は大脳皮質に向かう感覚入力の中継地点である。

(2) 視床下部は、(2) )、(3) )、(4) )、(5) )、(6) )、(7) ) などにかかわっている。

(3) (8) ) のホルモンの放出は、視床下部から出るホルモンにより制御されている。

(4) 視床下部弓状核にはドーパミン神経があり、下垂体からの (9) ) の放出を抑制している。

- (5) 視床下部のうち、内側視索前野は(⑩ ) に関与するとされている。
- (6) 視床下部のうち、視交叉上核は(⑪ ) に関与するとされている。
- (7) ナルコレプシーでは、視床下部の(⑫ ) ニューロンの脱落が本態であることが示唆されている。
- (8) (⑬ ) は間脳の視床下部につながっている。ホルモンを出す神経内分泌系のセンターである。
- (9) 下垂体ホルモンには(⑭ )、(⑮ )、(⑯ )、(⑰ )、(⑱ )、黄体形成ホルモンなどがある。
- (10) 下垂体後葉から出るホルモンには、(⑲ )、(⑳ ) などがある。

標準精神医学第7版より引用・作成

7. 次の( )にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 松果体からは、夜間に(① ) が放出される。
- (2) (② ) は、視床に接する1mm程度の小さな神経核である。  
(③ ) がないことを予測したときに、中脳腹側被蓋のドーパミン神経を抑制する。
- (3) 脳幹には(④ )、(⑤ )、(⑥ ) が含まれる。
- (4) 中脳の黒質には(⑦ ) があり、変性するとパーキンソン病を引き起こす。
- (5) 中脳には、左右一対の(⑧ ) と(⑨ ) からなる四丘体が存在する。( ⑧ ) は眼球運動関与し、( ⑨ ) は聴覚に関与する。

(6) 中脳には四丘体の他に、(10)、(11)、赤核などが存在する。

(標準精神医学第7版、公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学より抜粋、作成)

8. 前頭葉の構造や機能について、次の( )にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 前頭葉は(1)、(2)、(3)などに関与している。
- (2) 中心溝の前に(4)がある。中心溝と(4)に挟まれた場所を(5)という。
- (3) 中心前溝より前の部分は上前頭溝、下前頭溝より、上から(6)、(7)、(8)に分けられる。
- (4) 下前頭回の後部には(9)と呼ばれる部位がある。
- (5) 前頭葉には(10)があり、下前頭回後部に位置する。(10)が損傷されると(11)が生じる。
- (6) 前頭葉の(12)は、運動に関わる領域である。
- (7) 前頭葉の前側の領域を(13)と呼ぶ。機能によって(14)、(15)、(16)に分けられる。

(8) 前頭葉の神経ネットワーク

前頭前皮質背外側部	主に (17) ) に関する。 (18) )、具体的思考、(19) ) などに関わる
経路： 前頭前野背外側部 → (20) ) → (21) ) → (22) ) → 前頭前野背外側部	
眼窩前頭皮質	主に (23) ) に関する。(24) ) に適した行動、(25) )、(26) ) に関わる
経路：眼窩前頭皮質 → (27) ) → (28) ) → (29) ) → 眼窩前頭皮質	
前頭前皮質内側部	主に (30) ) に関する。
経路：前頭前皮質内側部 → (31) ) → (32) ) → (33) ) → 前頭前皮質内側部	

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より抜粋、作成

9. 頭頂葉の構造や機能について、次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 頭頂葉は (1) ) や (2) ) の把握などの  
(3) ) に関与している。
- (2) 中心溝の後ろには (4) ) がある。中心溝と (4) ) に挟まれた場所を  
(5) ) という。
- (3) (6) ) は感覚の入力を受け取る領域である。
- (4) 頭頂葉は頭頂間溝で (7) ) と (8) ) に分けられる。  
(8) ) は (9) ) と (10) ) に分けられる。



- (5) 上頭頂小葉は (⑪ ) とのつながりが強い。前頭連合野とも連絡し、  
 (⑫ ) に関係しているといわれている。
- (6) 下頭頂葉小葉では (⑬ ) との直接的なつながりが薄れており、  
 (⑭ ) な要素が強くなる。
- (7) 上頭頂小葉が障害されると、文字を書くことだけが障害される (⑮ ) が  
 生じるといわれている。
- (8) 右下頭頂小葉や右側頭-頭頂-後頭接合部が障害されると、 (⑯ ) が生じ  
 るといわれている。
- (9) 優位半球の角回、縁上回が障害されると、 (⑰ ) が生じるといわれてい  
 る。

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より抜粋、作成

10. 側頭葉の構造や機能について、次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 側頭葉、特に (① ) は言語機能に関与している領域である。
- (2) 側頭葉外側は上側頭溝、下側頭溝により、上から (② ) 、  
 (③ ) 、 (④ ) に分けられる。
- (3) 下側頭回より内側には (⑤ ) 、 (⑥ ) がある。
- (4) 海馬は (⑦ ) に関係している領域である。記憶には  
 (⑧ ) 回路が関係している。
- (5) Papez 回路  
 海馬 → (⑨ ) → (⑩ ) → (⑪ ) →  
 (⑫ ) → (⑬ ) → (⑭ ) →  
 (⑮ ) → 海馬
- (6) 上側頭回後部は (⑯ ) 領域と呼ばれる。 ( ⑰ ) 領域が損傷されると  
 (⑱ ) が生じる。

- (7) 側頭葉後下部が障害されると (18) ) の失書が生じるといわれている。
- (8) ブローカ領域とウェルニッケ領域を連絡する (19) ) が障害されると (20) ) が生じる。
- (9) 右側の紡錘状回の側頭～後頭移行部が障害されると (21) ) が生じるといわれている。

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より抜粋、作成

## 11. 後頭葉の構造や機能について、次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 後頭葉は (1) ) に関与している部位である。
- (2) 後頭葉には (2) ) がある。( 2 ) には (3) ) とその周辺の (4) ) がある。(5) ) は鳥距溝の周りにある。
- (3) 眼で見たものを脳で認識するには、(6) ) で情報を受け取る。
- (4) 後頭葉の内側にある (7) ) は頭頂葉との境界線である。
- (5) 視覚情報の経路には、(8) ) と (9) ) の2つの経路がある。
- (6) 腹側視覚経路 (what 経路) : (10) ) や対象の認識に関与している  
経路：一次視覚野 → (11) ) → (12) ) の後下部 → (13) ) → (14) )
- (7) 背側視覚経路 (where 経路) : (15) ) や (16) ) の認知に関与している  
経路：一次視覚野 → (17) ) → (18) ) の下頭頂小葉
- (8) 両側後頭～側頭葉が障害されると (19) ) が生じるといわれている。

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より抜粋、作成

12. 脳の解剖学的区分と分類について、次の（ ）にあてはまるものを書きなさい。

大脳 cerebrum	前脳 prosencephalon (forebrain)	終脳 telencephalon	大脳半球 cerebral hemisphere	(① ) frontal lobe
				側頭葉 temporal lobe
				頭頂葉 parietal lobe
				後頭葉 occipital lobe
			大脳基底核 basal ganglia	(② ) 被殻 putamen
				レンズ核 lentiform nucleus
		大脳辺縁系 limbic system	(③ ) globus pallidum	
			尾状核 caudal nucleus	
			(④ ) nucleus accumbens	
			乳頭体 mammillary body	
		(⑥ ) diencephalon	(⑤ ) amygdala	
			海馬 hippocampus	
視床 thalamus				
視床下部 hypothalamus				
松果体 pineal body				
(⑦ ) substantia nigra				
中脳 mesencephalon	中脳 midbrain	大脳脚 peduncles		
		(⑧ ) pons		
小脳 cerebellum	菱脳 rhombencephalon (hindbrain)	後脳 metencephalon	小脳 cerebellum	
脳幹 brainstem			髓脳 myelencephalon	延髄 medulla oblongata
脊髓 spinal cord	脊髓 spinal cord			

公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学より引用、改変

13. 次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 両側の側頭葉の内側に (① ) がある。( ① )の前方には扁桃体がある。
- (2) 島は (② ) ・ (③ ) ・ 側頭弁蓋によって覆われている。脳表から見たことが (④ ) 。
- (3) 大脳基底核には、 (⑤ ) 、淡蒼球、 (⑥ ) などが含まれる。
- (4) 尾状核と被殻を合わせて (⑦ ) と呼ぶ。

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より抜粋、作成

14. 脳のその他の部位について、次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

・大脳基底核

- (1) 大脳基底核には (① ) との神経ネットワークがあり、 (② ) に関与している。
- (2) 大脳基底核を損傷すると、 (③ ) 、筋固縮、小刻み歩行などの (④ ) が出現することがある。

・島

- (1) 島は前頭葉、 (⑤ ) 、 (⑥ ) 、下頭頂葉、 (⑦ ) 、 (⑧ ) 、嗅内皮質、 (⑨ ) 、 (⑩ ) などの部位と神経連絡している。
- (2) 島は (⑪ ) 、 (⑫ ) 、 (⑬ ) 、痛み、味覚、 (⑭ ) 、 (⑮ ) などの機能に関係している。

・帯状回

- (1) 帯状回は大きく分けて (⑯ ) と (⑰ ) からなっている。
- (2) 前部帯状回は (⑱ ) を中心とした神経ネットワークに含まれる。
- (3) 後部帯状回は (⑲ ) と連絡しており、 (⑳ ) 、記憶を必要とする行動の統制に関与しているといわれている。(㉑ ) において、初期から機能障害が生じる部位といわれている。

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より引用

15. 次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 全身の循環と脳の間には (① ) が存在する。
- (2) 小脳は (② ) に重要であるとされている。
- (3) 運動に直接対応した一次運動野は (③ ) に存在する。
- (4) 一次体性感覚野は (④ ) に存在する。
- (5) 一次視覚野は (⑤ ) に存在する。
- (6) 一次聴覚野は (⑥ ) に存在する。
- (7) 中心溝前部の (⑦ ) と中心溝後部の (⑧ ) には、  
身体の位置と対応する機能局在がある。
- (8) ヒト脳では (⑨ ) のほうが多い。
- (9) (⑩ ) の中心溝前部に一次運動野がある。一次運動野の前には  
(⑪ ) や補足運動野がある。
- (10) 前頭前野には (⑫ ) を抑制する働きがある。
- (11) 前頭葉の背外側部は (⑬ ) にかかわっており、  
(⑭ ) に関与する。
- (12) 前頭葉の腹内側部は (⑮ ) 、 (⑯ ) の制御に関与  
すると考えられている。
- (13) 視覚の背側経路は (⑰ ) から (⑱ ) に至る経路で  
ある。空間の中の (㉑ ) や (㉒ ) を認識する。
- (14) 視覚の腹側経路は (㉓ ) から (㉔ ) に至る経路で  
ある。 (㉕ ) や (㉖ ) を細かく分析する。
- (15) (㉗ ) には音の受容野があり、近傍に聴覚言語にかかわる  
(㉘ ) がある。
- (16) 側頭葉と頭頂の間にある (㉙ ) は、嗅覚、味覚、内臓感覚を統合する機  
能をもつ。
- (17) (㉚ ) は、大脳皮質に向かう感覚入力の中継地点である。
- (18) セロトニンは (㉛ ) との関連が示唆されている。

(19) ドパミン神経活動は (30) ) を反映すると考えられている。

標準精神医学第7版より抜粋、作成

16. 次の ( ) にあてはまる言葉に丸をつけなさい。2つ以上○をつけることもあります。

- (1) 抗精神病薬作用と関連するのは、(黒質線条体系・中脳辺縁系・中脳皮質系・隆起漏斗系) ドパミン系であると推定されている。
- (2) 脳内ドパミン系のうち(黒質線条体系・中脳辺縁系・中脳皮質系・隆起漏斗系)を抗精神病薬などで強く遮断すると、Parkinson病と類似した状態が作り出され、錐体外路症状が出現する。
- (3) (黒質線条体系・中脳辺縁系・中脳皮質系・隆起漏斗系)のドパミンはプロラクチン放出抑制因子であるため、強く遮断されると高プロラクチン血症が生じる。
- (4) 抗ヒスタミン作用は副作用として(口渇・眠気・血圧低下・中毒)をもたらす。
- (5) (興奮性・抑制性)神経伝達物質のGABAは脳内に広く分布している。
- (6) 抗認知症薬のドネペジル塩酸塩は(アセチルコリン・ドパミン・アドレナリン・ヒスタミン)の分解を抑える。
- (7) (グルタミン酸・GABA・セロトニン)は情動、意欲や睡眠、食欲といったうつ病に関連する機能で重要な役割を果たしている。
- (8) ストレスが加わると(モノアミン・バソプレシン・ヒスタミン)の遊離が起こり、結果としてうつ病が発症するという受容体過感受性仮説が提唱されている。

標準精神医学第7版より抜粋、作成

17. 次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

興奮性神経伝達物質	ドパミン	アドレナリン、ノルアドレナリンの前駆体。中枢作用は報酬や運動の調節に関与している。薬物乱用、 (① )、(② ) の病因に関与している。報酬予測誤差(報酬の予測と報酬の差)を反映すると考えられている。
	アセチルコリン	中枢での主な役割は覚醒、(③ )、 (④ )、記憶の調節に関与すること。 Alzheimer病では、特に新皮質と(⑤ )で減少して学習や記憶障害に影響する。自律神経系の (⑥ )に関与している。
	ノルアドレナリン	(⑦ )の主要な伝達物質。中枢での役割は(⑧ )、食欲や気分の調節に関与すること。
	アドレナリン	末梢では(⑨ )で生産される。 (⑩ )反応を起こす。自律神経系の (⑪ )に関与している。
	セロトニン	中枢での主な役割は、(⑫ )、 (⑬ )、血圧、睡眠、疼痛、 (⑭ )、(⑮ )、 (⑯ )、内分泌の調節への関与である。末梢作用は(⑰ )の仲介への関与である。 (⑱ )と関連がある。セロトニンが不足すると(⑲ )率が高くなり、将来の報酬をすぐ待てず、すぐに得られる報酬を選んでしまう傾向が現れる。
	グルタミン酸	中枢神経系での主要な興奮伝達物質。神経の可塑性、 (⑳ )と(㉑ )に関与している。
	アスパラギン酸	(㉒ )と酷似している。グルタミン酸よりより軽度に作用する。
抑制性神経伝達物質	γ-アミノ酪酸(GABA)	中枢神経系での主要な抑制性のアミノ酸。過度の作用は (㉓ )、抗不安や抗けいれん作用など。
	グリシン	抑制性アミノ酸の1つ。
	オピオイド類	生理的な役割は(㉔ )、ストレス機構、(㉕ )、温度調節、 (㉖ )など。

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学、標準精神医学第7版を参考に作成

18. 次の（ ）にあてはまる言葉を四角の中から選んで書きなさい。

モノアミン神経系 セロトニン神経細胞 ノルアドレナリン神経細胞 アセチルコリン神経系  
ヒスタミン神経系

モノアミン神経系	橋	青斑核	(① ) 神経細胞
		縫線核	(② ) 神経細胞
	延髄	孤束核	(③ ) 神経系
	視床下部	結節乳頭核	(④ ) 神経系
Meynert 基底核			(⑤ ) 神経系

標準精神医学第7版より抜粋、作成



## 精神機能とその異常 意識

1. 次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) 外界からの刺激を受け入れ、自己を外界に表出する心的機能を (① ) とい  
う。
- (2) 意識には 1. (② ) していること、2. (③ ) していること、  
の 2 つの要素が含まれている。
- (3) 覚醒には、(④ ) が役割を担っている。
- (4) 外界の認識には、大脳皮質の (⑤ ) と (⑥ ) が役割を担っ  
ている。
- (5) 覚醒しており、外界の認識ができる場合を (⑦ ) という。このとき外的刺  
激に対して (⑧ ) を集中することができる。
- (6) (⑨ ) は意識の清明度 (⑩ ) が低下している状態である。
- (7) 意識障害の評価法には、痛覚などの知覚刺激に対する反応の程度によって評価する  
(⑪ ) と開眼、運動反応、言語反応の 3 つの覚醒行動反応を評価する  
(⑫ ) とがある。これらは (⑬ ) を評価する。

標準精神医学第 7 版より抜粋、作成

2. 次の空欄にあてはまる言葉を四角の中から選んで書きなさい。

意識混濁 意識変容 意識狭窄

①	意識の（清明度（覚醒度））が低下している状態
②	意識の広がりが狭くなる
③	意識の（内容）が変化し、異常な精神症状が生じる

標準精神医学第 7 版より抜粋、作成

3. 次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) (① ) は意識の清明度 (② ) が低下している状態である。  
 (2) 意識混濁では意識全体が (③ )、(④ ) や (⑤ ) などの精神機能も同時に障害される。  
 (3) 意識障害の評価法には、痛覚などの知覚刺激に対する反応の程度によって評価する (⑥ ) と開眼、運動反応、言語反応の3つの覚醒行動反応を評価する (⑦ ) がある。これらは (⑧ ) を評価する。

標準精神医学第7版より抜粋、作成

4. 次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

せん妄 delirium (狭義)	軽度ないし中等度の意識混濁に活発な (① ) を伴う。視覚領域を中心とした (② ) や (③ ) とともに、焦燥、妄想などが現れる。外界の刺激を認識することが (④ ) 。
もうろう状態 twilight state	(⑤ ) の状態。精神運動興奮はせん妄に比べて (⑥ ) 。回復後に (⑦ ) を残す。てんかん (発作後もうろう状態 postictal twilight state)、解離症、(⑧ ) などにみられる。かけ上、複雑な行動をとり旅行することもある、(⑨ ) 状態もある。
アメンチア ementia	意識混濁はごく (⑩ ) 。(⑪ ) と困惑を前景とする (⑫ ) 。患者は考えがまとまらないことに戸惑い、同じ問答を繰り返す。(⑬ ) などの症状性精神障害などでみられる。
夢幻状態 dreamy state	夢に似た (⑭ ) を呈する。浮動性のイメージが夢のようにとりとめなく現れては消える (⑮ ) が前景。(⑯ ) 、器質性精神障害、(⑰ ) など。
通過症候群 transit syndrome	(⑱ ) などの意識混濁の後、回復期に意識混濁が消退したにもかかわらず、一過性に可逆的な精神症状がみられる。(⑲ ) 、妄想、(⑳ ) 、自発性欠乏、抑うつなど。

標準精神医学第7版より抜粋、作成

5. 次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

(1) アメンチア Amentia

思考錯乱と (① ) を前景とする意識変容。意識混濁は目立たず、患者は (② ) がまとまらないことに自らとまどい、同じ (③ ) を繰り返す。産褥精神病などの症状精神病、脳炎、せん妄の回復期などにみられる。

(2) せん妄 delirium

軽度ないし中等度の動揺する (④ ) に活発な妄覚、強い不安・恐怖、不穏・ (⑤ ) を伴う代表的な (⑥ ) 。鮮明な場面性の強い (⑦ ) が次々とあらわれては消え、患者は夢と現実の区別がつかなくなり、事実を妄想的に曲解する。回復すると (⑧ ) を残すが、一部を覚えていて残遺妄想を形成することがある。症候性、器質性、中毒性の精神障害に広く認められる。小児と (⑨ ) 高齢者に頻度が高い。夕刻から (⑩ ) に生じやすい。

(3) 包囲せん妄

(⑪ ) で周囲を包囲されたと思いこむこと。

(4) 振戦せん妄 delirium tremens

(⑫ ) の離脱にみとめられるせん妄。(⑬ ) の粗大な振戦、不眠、発汗や頻脈などの (⑭ ) 、 (⑮ ) や (⑯ ) 虫の幻視などが特徴。

(5) 夢様状態 dreamy state

(⑰ ) の精神発作において時間や空間が変化し、誇張されて体験される状態。親近感の変容した既視・未視感、離人症を伴う。

(6) もうろう状態 twilight state

(⑱ ) の範囲が突然狭窄し、精神活動が限られた境界明瞭なまったく異質な状態に入り、一定期間で (⑲ ) した後、 (⑳ ) を残す。入る直前に強い不安や妄想気分を感じる。

興奮して暴れるときと、一見まともな行動をとるものがあり、前者は通電療法、

(21) )の後、病的酩酊などにみられる。後者は(22) )てんかん( (23) )、小発作重積)、心因反応( (24) )、頭部外傷( (25) )、薬物中毒などにみられる。見かけ上は秩序だった複雑な行動(徘徊、旅行)をとる(26) )を示すことがある。

### (7) Ganser 症候群

(27) )を主徴とするヒステリーないし心因性症候群。変化しやすい種々の意識障害、(28) )、妄覚、痛覚脱失などを伴う。

### (8) 通過症候群 transit syndrome

身体に基礎をおく精神病のうち(29) )で意識障害を欠くもの。症状に応じて(30) )、感情、感情・健忘、幻覚、妄想、幻覚・妄想、発動性欠如の7種類が記載され、程度に応じて軽度(抑うつ、易疲労性)、中等度(発動性低下、情動障害)、高度(健忘、秩序性もうろう状態)の3段階に分けられる。(31) )に移行ないし( 31 )からの回復過程にみられる。

精神症候学第2版より抜粋、作成

6. 次の( )にあてはまる言葉を四角から選んで書きなさい。

低下 焦燥 過活動型せん妄 意識変容 嗜眠 覚醒水準 医療 意識混濁

(1) DSM-5におけるせん妄は(①) )と(②) )の全てを包括する広義の概念である。ただし、昏睡に至るような著しく(③) )が低下した状態は除く。

(2) 従来のせん妄にあたるのは(④) )である。

過活動型せん妄	気分の不安定性、(⑤) )が目立つ。時に(⑥) )への協力拒否。
低活動型せん妄	昏迷に近いような活動性の(⑦) )が目立つ。時に(⑧) )を伴う。

標準精神医学第7版より抜粋、作成

## 精神機能とその異常 知覚

1. 次の（ ）にあてはまる言葉を四角から選んで書きなさい。

知覚過敏 注意集中 知覚 perception 意味 知覚変容 sensory distortion 恐怖 意識  
パレイドリア (変像症) pareidolia 錯覚 錯聴 せん妄 健常人

- (1) (① )とは感覚器官 sensory organ を通じてわれわれが外界に存在する物を(② )し、その(③ )を知ることである。
- (2) (④ )とは、実物を量的、あるいは質的に歪めて知覚することをさす。(⑤ )などがある。
- (3) 実際にある対象を誤って認識することを(⑥ )という。(⑦ )と錯視がほとんどを占める。
- (4) 錯覚は疲労などによる(⑧ )の低下、(⑨ )や不安が強い場合に生じる。(⑩ )でも体験する。
- (5) 注意を集中しても消失せず、恐怖などの感情的な影響を受けない錯覚を(⑪ )という。(⑫ )でみられることが多い。

標準精神医学第7版より抜粋、作成

2. 次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) (① )は「雲や壁のしみがどうしても顔に見える」など、不完全な感覚材料から明瞭な錯覚像が作り出されることである。(② )が保たれ、注意を集中しても消えない。
- (2) (③ )は対象がいつもとは違って感じられる主観的体験である。
- (3) (④ )は、初めての場面に遭遇して、過去の不定の時期に既に見たことがある、体験したことがあると感ずることである。
- (4) (⑤ )は、よく知っている人物をその人ではなく、そっくりな別人、偽物などにすり替わっていると主張する人物重複あるいは変身の体験である。

精神症候学第2版より抜粋、作成

3. 次の（ ）に当てはまる言葉を四角から選んで書きなさい。

体験記述 総和 実存分析 背景 ゲシュタルト Gestalt 終ゲシュタルト Endgestalt  
ゲシュタルト崩壊 Gestaltzerfall 初ゲシュタルト Vorgestalt ベルリン Conrad K  
Perls F Wertheimer M Koffka K 記憶 知覚 perception 思考

- (1) (① ) は、有機体が感覚器の刺激を介して外界や自分自身の出来事、状態を知ることである。
- (2) 知覚 perception で得られるものは、情意、(② )、(③ ) がある程度関与したまとまりをもつ。
- (3) 要素に分割できず、全体としてまとまりをもつ構造を(④ ) という。
- (4) ゲシュタルト心理学 Gestaltpsychologie は、要素心理学に対し、心的現象はひとつのまとまりをもつゲシュタルトを示し、全体は部分の(⑤ ) 以上であるとする(⑥ )、(⑦ ) ら(⑧ ) 学派の説である。
- (5) ゲシュタルト性状を形成するため、知覚された対象は(⑨ ) から離れて、萌芽的な(⑩ ) から完成された(⑪ ) へ向かう。
- (6) 知覚されたものが構造を失い、ゲシュタルト性状が解体することを(⑫ ) という。
- (7) ゲシュタルト分析は(⑬ ) の心理学的方法で、詳細な(⑭ ) と体験分析にもとづく。
- (8) ゲシュタルト療法 gestalt therapy は(⑮ ) の心理療法で、(⑯ ) に類似している。

4. 幻覚について ( ) に当てはまる言葉を四角から選んで書きなさい。

会話 レビーLevy小体型認知症 統合失調症 統合失調症 幻視 被害妄想 意識変容 振戦せん妄 delirium tremens 考想化声 audible thought 区別 言語 要素 要素 批判 被害的

- (1) 対象が存在しないにもかかわらず真の知覚と (①) ) できない知覚体験をすることを幻覚という。
- (2) (②) ) は視覚に生じる幻覚である。器質性あるいは物質・医薬品による精神障害によって (③) ) が生じた際にみられる。意識障害を伴わない (④) ) などでもみられることがある。
- (3) アルコール離脱による (⑤) ) では小動物や小人などの幻視が特徴的である。
- (4) (⑥) ) では、ありありとした幻視がみられる。虫、動物、人などが本人は実在するものとして認識される。
- (5) 幻聴は人の声が聞こえる (⑦) ) 性幻聴 (幻声) と、それ以外の音や音楽などが聞こえる (⑧) ) 性幻聴に分かれる。
- (6) 言語性幻聴は (⑨) ) で頻繁に生じる。
- (7) Schneider K は統合失調症の一級症状の幻聴として、 (⑩) ) 、 (⑪) ) 形式の幻聴、自分の考えや行動を絶えず (⑫) ) する幻聴の3つをあげている。
- (8) 幻声は (⑬) ) な内容が多く、患者は (⑭) ) を抱く。
- (9) 器質性あるいは物質・医薬品による精神障害では (⑮) ) 性幻聴が多い。

5. 幻覚について ( ) に当てはまる言葉を四角から選んで書きなさい。

皮膚感覚 させられ (作為) 体験 controlled experience 幻触 自己臭症 内臓感覚  
異常 被毒妄想 皮膚寄生虫妄想 delusional parasitosis 被毒妄想 薬物乱用者  
思春期 不快

- (1) 幻嗅では (① ) で (② ) な臭いを体験することがほとんどである。
- (2) 食物に関する幻嗅はしばしば (③ ) に結びつく。
- (3) 自分自身が不快な臭い (体臭など) を発し、それによって周囲が自分のことを嫌がり、避けていると確信することを (④ ) という。 ( ④ ) は (⑤ ) にしばしばみられる。
- (4) 幻味は幻嗅同様、 (⑥ ) に結びつくことがある。
- (5) 体感幻覚 (体感症) は (⑦ ) 、深部感覚、 (⑧ ) における幻覚である。「脳が縮んだり膨らんだりする」などと訴えるのは (⑨ ) である。
- (6) 体感幻覚は (⑩ ) と結びつく。
- (7) (⑪ ) などでは小動物や昆虫が皮下を這うような感覚が生じることがあり、しばしば (⑫ ) を伴う。

標準精神医学第7版より抜粋、作成



6. 幻覚について（ ）に当てはまる言葉を四角から選んで書きなさい。

夕方 エンジンのうなり 言語幻聴 夜 統合失調症 要素幻聴 水滴音 せん妄 妄想性障害 考想化声 audible thoughts (考想反響 thought echo) 恐怖 要素幻覚 elementary hallucination アルコール離脱 人の声 てんかん 幻覚 hallucination 会話形式の幻聴

- (1) 感覚器に刺激が与えられていないのに知覚を生じる病的体験を  
(① ) という。
- (2) 光、音など感覚要素の幻覚を (② ) という。
- (3) 幻聴 auditory hallucination は、単純な音や響きの聞こえる  
(③ ) ないし幻音 acousma と、(④ ) を聞く言語  
幻聴 verbal hallucination ないし幻声 phoneme に区別される。
- (4) ベル音、(⑤ )、(⑥ ) などは要素幻聴である。器質疾患、(⑦ )、(⑧ ) にあらわれる。  
(⑨ ) や (⑩ ) の初期、慢性期にも生じることがある。
- (5) (⑪ ) は圧倒的に統合失調症に多い。
- (6) 自分の考えが声になって聞こえる現象を (⑫ ) という。
- (7) Schneider K は (⑬ )、行為を批評する声の幻聴を統合失調症の  
一級症状に含めた。
- (8) (⑭ ) 時のせん妄には動物幻視が多い。
- (9) パーキンソン病患者の幻覚は、(⑮ ) から  
(⑯ ) にかけて見える幻視である。人、動物が屋内外に集団で出現  
し、目的のある行動をとったり、リーダーのいる社会をなしているらしいこともある。  
患者に対して口をきかず、見ても (⑰ ) を感じない。

## 精神機能とその異常 記憶

1. 次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

(1) 記憶とは過去の情報を (① ) し、必要に応じてその利用を可能にする精神機能である。

(2) 記憶の脳内機構として (② ) や (③ ) を中心とした大脳辺縁系が関与している。この部位に障害が及ぶと、記憶の障害が生じる。

(3) 記憶の段階

(④ )	知覚した対象を心に刻みつけること。
(⑤ )	記銘を維持すること。
(⑥ )	記銘したことを意識の上に呼び出すこと。
(⑦ )	対象が記銘したものと同じであると確認すること。

(4) 記憶の種類

(⑧ )	数秒～分。認知心理学では (⑨ )	
(⑩ )	数分～数日	認知心理学では (⑫ )
(⑪ )	週～月～年	

(5) 長期記憶の分類

(⑬ )	意味記憶：りんごは赤い (⑮ )：いつ頃〇〇に旅行した
(⑭ )	手続き記憶 例：自転車に乗るなど身体的な記憶

標準精神医学第7版より抜粋、作成

2. 次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

(1) 記憶は、(1) ( )、(2) ( )、(3) ( ) の3つの段階から成り立っていると考えられている。

(2) 記憶の段階

符号化	情報を覚えるための処理を行う段階。登録や(4) ( )と呼ばれることもある。	
保持	符号化された情報を脳内に(5) ( )しておく段階。(5) ( )や(6) ( )と呼ばれることもある。保持時間の長さによって、記憶を(7) ( )と(8) ( )に分類することができる。	
検索	情報を思い出す段階。 (9) ( )や (10) ( )と 呼ばれることもある。	(11) ( )再生：検索のための手掛かりがある状況で思い出すこと
		(12) ( )再生：手掛かりがない状況で思い出すこと
		(13) ( )：提示された選択肢から覚えた情報を選択するような思い出し方

(3) ワーキングメモリの構成

(14) ( )	音韻的情報を保持するシステム
(15) ( )	視覚的情報を保持するシステム
(16) ( )	複数の情報の統合表象を保持するシステム
(17) ( )	上記3つを制御する。

(4) 記憶の分類

<p>(18) ) 記憶</p>	<p>目や耳といった感覚器から入力された刺激をそのままの状態 で蓄える機能。</p> <p>(19) ) : 視覚に関する感覚記憶。保持時間は数百ミリ秒程度。</p> <p>(20) ) : 聴覚に関する感覚記憶。保持時間は数秒程度。</p>
<p>(21) ) 記憶</p>	<p>ごく短時間、限られた量の情報を保持する働きをもつ記憶。 保持時間はおおよそ数秒～数十秒程度。</p> <p>短期記憶を保持できる情報量：一般的に (22) ) チャンク程度。</p> <p>ワーキングメモリ：(23) )、 (24) )、(25) )、会話と いった情報処理を支える重要な認知的基礎。</p> <p>(26) ) ループ、視空間 (27) )、(28) ) バッフ ァ、(29) ) 実行系から成り立っていると考 えられている。</p>

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学から抜粋、作成

3. 次の ( ) にあてはまる言葉を書きなさい。

- (1) (1) ) は、長時間情報を保持する働きを持つ記憶である。
- (2) エピソード記憶などの宣言的記憶は、主に側頭葉内側の (2) ) とその周辺の  
働きが関係していると考えられている。

(3) 長期記憶の分類

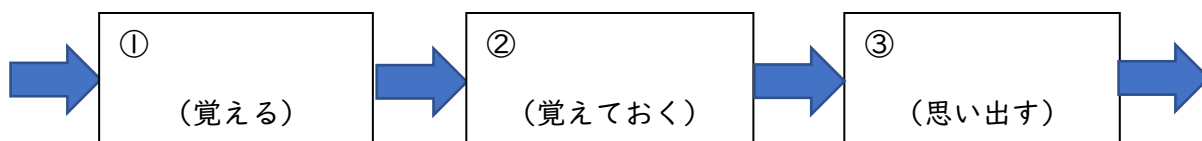
宣言的記憶	(5) ) :
(3) ) 記憶	知識や意味といった事実に関する記憶
(4) ) 記憶	(6) ) :
	時間や場所などの属性が付随した出来事に関する記憶
	(7) ) :
	自己に関連していて、現在のアイデンティティ形成のもとになるような記憶。
(8) ) 記憶	(10) ) :
非陳述的記憶	技能や習慣などに関する記憶。自転車の乗り方、キーボードの打ち方など、“動作”として思い出される記憶
(9) ) 記憶	(11) ) :
	無意識的な記憶。以前の経験（先行刺激）が無意識的にその後の情報処理を促進する働きをする。

(12) ) 記憶	最近経験した出来事の記憶。新しい記憶。
(13) ) 記憶	だいぶ前に経験した昔の出来事の記憶。古い記憶。
(14) ) 記憶	過去の出来事を思い出すこと。
(15) ) 記憶	未来に行おうとする行動の記憶。これからしなければならぬことをちょうどよいタイミングで思い出すという働きがある。

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学から抜粋、作成

4. 次の空欄にあてはまる言葉を書きなさい。

(1) 記憶の3過程



公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学より引用、作成

5. 次の（ ）にあてはまる言葉を四角から選んで書きなさい。

ヤコブレフ記銘 パペッツ 短期記憶 長期記憶 固定化

- (1) (① ) は覚える過程である。
- (2) 記銘は、心理学的には (② ) から (③ ) への情報の移行、  
神経学的には記憶の (④ ) に該当する。脳では記憶に関する回路として、  
(⑤ ) の回路や (⑥ ) の回路などが形成されている。

公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学より引用、作成

6. 次の（ ）にあてはまる言葉を書きなさい。

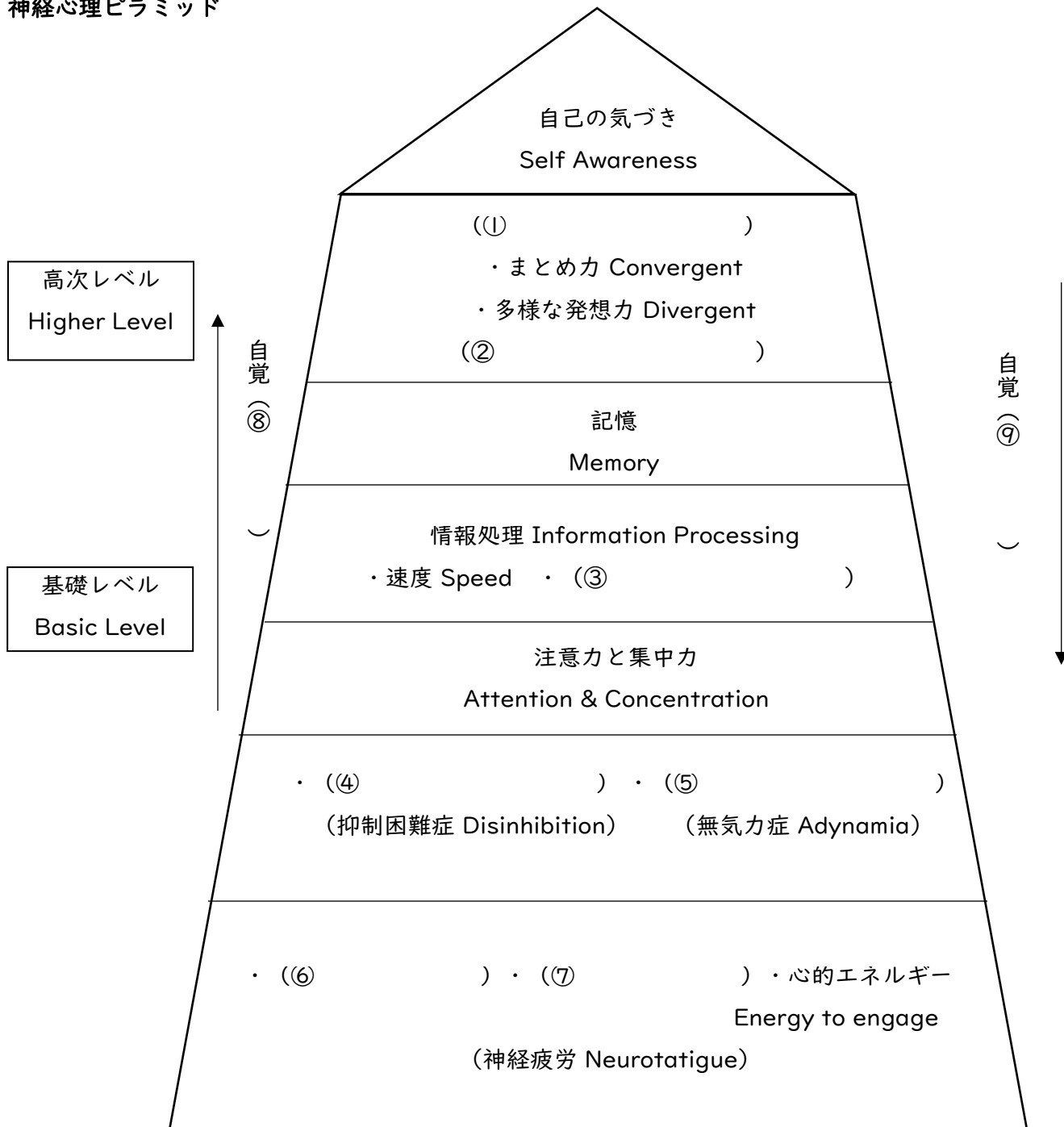
- (1) (① ) された情報は保持される。
- (2) (② ) では記銘力検査で正常な成績であっても急速に忘却が生じる加速的  
な長期忘却 (accelerated long-term forgetting) を示すことがある。
- (3) 一般的に、健忘の患者では情報の取り出しは、 (③ ) や  
(④ ) によって確認される。 (⑤ ) や  
(⑥ ) の問題の有無も取り出しの過程によって確認される。
- (4) (⑦ ) は意図的に思い出すことである。
- (5) (⑧ ) は情報を同定したり、選択肢のなかから選ぶことである。
- (6) 即時記憶：現在～ (⑨ ) 前。心理学の短期記憶に相当。評価は  
(⑩ ) で行うことが多い。
- 近時記憶： (⑪ ) ～ (⑫ ) 。干渉を加えた後に、  
(⑬ ) を求めることで確認する。
- 遠隔記憶： (⑭ ) ～ (⑮ ) 前。社会的な出来事や個  
人のエピソードを聴取することで確認される。 (⑯ ) 検  
査や (⑰ ) 検査で確認する。
- 干渉：頭のなかで別な作業をさせること。 (⑱ ) を阻害する。

公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経心理学より引用、作成

## 高次脳機能障害

1. 次の神経心理ピラミッドの図にあてはまる言葉を書きなさい。

神経心理ピラミッド



公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より引用

2. 次の（ ）にあてはまる言葉を下の枠の中から適切なものを選んで書きなさい。

言葉は2回以上使うことがあります。

障害 比較的良好 流暢 非流暢

古典的分類による失語症のタイプ分類

失語症タイプ	発話		聴覚的理解	視覚的理解	書字	自由会話
	復唱	呼称				
ブローカ	(① )	(② )	(③ )	障害	(④ )	(⑤ )
ウェルニッケ	障害	(⑥ )	障害	(⑦ )	障害	(⑧ )
伝導	(⑨ )	障害	比較的良好	比較的良好	(⑩ )	(⑪ )
全失語	障害	障害	障害	障害	障害	非流暢
失名詞	(⑫ )	(⑬ )	(⑭ )	比較的良好	(⑮ )	(⑯ )
混合型超皮質性	比較的良好	障害	(⑰ )	(⑱ )	障害	(⑲ )
超皮質性運動	(⑳ )	障害	(㉑ )	比較的良好	(㉒ )	(㉓ )
超皮質性感覚	(㉔ )	障害	障害	障害	障害	(㉕ )

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より抜粋引用



## 心理検査・精神症状評価尺度

1. 次の表にあてはまる言葉を書きなさい。

### 主な知能検査

検査名	適用年齢 (診療報酬点数)	内容
①	2歳～成人 (280点)	言語、動作、記憶、数量、知覚、推理、構成などの内容からなる多目的総合検査。「年齢尺度」が導入され、各課題の年齢的な基準が示されている。
②	2歳6か月～ 7歳3か月 (280点)	全検査IQの計測が可能。認知発達の変化に対応し、4歳を境に下位検査の組み合わせを変えている。4歳未満は言語理解と知覚推理指標、語彙総合得点を、4歳以上は加えて処理速度指標の合計得点を得ることができる。
③	5歳0か月～ 16歳11か月 (450点)	全検査IQの計測が可能である。一般的知能能力を計測する言語理解・知覚推理と認知熟達度指標を計測するワーキングメモリ・処理速度の4つの指標からなる。
④	16歳0か月～ 90歳11か月 (450点)	WAIS-III 成人知能検査の改訂版で、10の基本検査により全検査IQ (FSIQ) と言語理解指標 (VCI)、知覚推理指標 (PRI)、ワーキングメモリ指標 (WMI)、処理速度指標 (PSI) の5つの合計得点が算出される。
⑤	2歳6か月～ 18歳11か月 (450点)	知的活動を認知処理過程と習得度から測定し、検査結果を教育的な働きかけ結び付け得る点の特徴。継時処理能力、同時処理能力、計画能力、学習能力、流動性推理や結晶性能力などの能力を測定する。

公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学より引用

## 精神医療と社会

1. 次の表にあてはまる言葉を書きなさい。

### 精神保健福祉法の歴史

1900年	(①)	)	不法監禁の防止
1919年	精神病院法	(②)	)の設置
1950年	(③)	)	私宅監置の禁止 医療・保護に関する総合的法律
1965年	精神衛生法改正	(④)	)、通院医療費公費負担
1987年	(⑤)	)	人権擁護規定の整備 (精神保健指定医・(⑥))
1993年	(⑦)	)	精神障害者を障害者と位置づけ
1995年	(⑧)	)	福祉施策の導入 (社会復帰施設・精神障害者保健福祉手帳)
2005年	(⑨)	)	地域生活支援制度の移管
2012年	障害者総合支援法	(⑩)	)を改正
2013年	精神保健福祉法改正	(⑪)	)の廃止

標準精神医学第7版より引用

参考文献：濱田秀伯 2015 精神症候学第2版 弘文堂

石合純夫 2013 高次脳機能障害学2版 医歯薬出版株式会社

厚生労働省 eヘルスネット <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/>

みんなのメンタルヘルス <https://www.mhlw.go.jp/kokoro/>

こころの耳 <https://kokoro.mhlw.go.jp/>

小海宏之 2019 神経心理学的アセスメント・ハンドブック第2版 金剛出版

松田修・飯干紀代子・小海宏之 2019 公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学

ミネルヴァ書房

緑川晶・山口加代子・三村將 2018 公認心理師カリキュラム準拠【神経・生理心理学】臨床神経

心理学 医歯薬出版株式会社

無藤隆・子安増生 2011 発達心理学I 東京大学出版会

尾崎紀夫・三村將・水野雅文・村井俊哉 2018 標準精神医学第7版 医学書院